

新刊紹介



びっくり! すごい! 美しい!
「橋」と「トンネル」
に秘められた
日本のドボク

著監修者：三浦基弘（みうら・もとひろ）
編著者：造事務所
発行所：株式会社 実業之日本社
新書：224ページ
版 型：新書
定 価：800円（税別）

地形を克服し、物流・移動を確保して国土の骨格を造り上げる橋とトンネル。海を渡る橋から街中の小さな橋、継続換気方式を用い「風穴を開けた」長大トンネルから歩行用の小さなトンネル。無数にあるそれらは一見、無骨で味気なく見えるが視線を向けてみれば個性がそこそこに散りばめられ、そこに造られた必然性や個々の事情も見えてくる。

本書は、そんな橋とトンネルがターゲットだ。橋については構造的分類を紹介した後、更に簡単な力学的仕組みを説明している。トンネルについては、トンネルを造る地山（不連続面と空隙などを含むトンネル周辺の地盤の総称）の性質が、鉄や木、コンクリートに比べて複雑でバラツキが大きく、構造や力学的説明が難しいため、構造ではなく「工法」によって分類して紹介している。

構成は、読者に橋やトンネルに興味をもってもらえるよう、橋やトンネルにまつわる話題を見開きでまとめている。

Part1では橋の発展の歴史や用途、種類、工法をはじめ世界や日本の珍しい橋や産業の発展と強く関わっていることを紹介。Part2では、「ダムカードに続け! 埼玉県が独自に発行をはじめた『橋カード』」、「子どもも楽しめる橋、子どもにこそ渡ってほしい橋」など奥深い橋の魅力を伝えようと努めている。Part3からトンネルに移り、世界と日本のトンネル史から始まり、工法や、長くなればなるほど入口と出口の標高が違う理由などトンネルへの関心が高まるように構成し、トンネルの魅力を取りまとめたPart4へいざなおうとしている。

このように、橋とトンネルと一緒に紹介している本はなかなか見たことがないような気がする。監修の三浦氏と編著者のチームは、読者に橋とトンネルの魅力を余すことなく伝えようと渾身を込めて取りまとめている。

一度、手に取って目を通してみてはいかがだろうか。